

京都・久御山に新拠点

4月に稼働を開始へ

JPトールロジ トールジャパン

JPトールロジスティクス（本社・東京、小野種紀社長）とトールエクスタレスジャパン（同・大阪市、山本龍太郎社長）は4月、京都府久御山町に新センターを稼働する。下層階がターミナル、上層階が倉庫の併設型施設で、今後、両社が進める拠点展開の基本軸と位置付ける方針だ。（遠藤 仁志）

新センターの名称は、JPトールロジが「関西第一物流センター」、トールジャパンが「京都支店」とする。所在地は久御山町下津屋上ノ浜28ノ1。両社で三井物産都市開発の「ロジベース久御山」を1棟賃借する。第1階はトールロジがターミナルとして使用する。ホームの長さは約97メートル、幅は最大約62メートル。接車スペースは両面で計27台分。ドックレベルは1を18基設け、全天候に対応する。ホームはシャッターを完備し、鳥害や

風水害を防ぐとともに、セキユリティ一面も高めた。2、3階はJPトールロジが使用し各階6区画で構成する。常温対応だが「将来的に定温機能に転換できる構造」とJPトールロジ。庫内には荷物用エレベーター2基、垂直搬送機2基、各階にフォークリフトの充電エリアを2カ所整備した。センター内の事務所

は、幹線ドライバーの休憩・休息を考慮し、仮眠室は個室化で5つ用意。大人が足を伸ばして入浴できるユニットバス1室と、シャワールーム1室も整備した。

2月22日のしゅん工式で、JPトールロジの津山克彦代表取締役副社長は「新センターは両社初の試みでマザーシップ（母船）となる」とし、昨年6月に開設した関東第一物流センター（埼玉県幸手市）と共に、ノウハウの蓄積や人材育成を急ぐ考えを示した。

また「日本郵便グループが持つ、国内のB to B、to C、国際物流と一気通貫のサービスを強化する」と今後の拠点について展望。新センターでは約3キロに位置する日本郵便の京都ソリュシヨンセンター（城陽市）

とも連携する見通しだ。トールジャパンの橋本陽一専務は「労働環境の改善を強力で推し進めながら、ドライバー確保と

自社車両を強化する。同時に、今回のセンター開設を契機に、JPトールロジと新分野にチャレンジしたい」と語った。



ターミナル・倉庫併設型の新センター（京都府久御山町）



「新機軸となると拠点に」とJPトールロジの津山副社長（右）とトールジャパンの橋本専務